

2019年 環境レポート

2018年度における環境保全・社会活動年次報告



表紙/“CASBEE Sランク”に認証登録した環境配慮型研究施設
「つくば未来センター」が竣工・開所 (関連記事: 本文 p1,3)

2019年9月



MOVE EARTH, MOVE EVERYTHING
日本国土開発株式会社

KOKUDO

会社概要

(2019.8月末 現在)

社名	日本国土開発株式会社 (JDC CORPORATION)
設立年月日	1951年4月10日
代表者	代表取締役社長 朝倉 健夫
営業種目	土木事業、建築事業、開発事業
資本金	50億円
売上高	1,095億円 (2018年6月1日～2019年5月31日)
本社所在地	東京都港区赤坂4-9-9
従業員数	878名 [190名] 但し、臨時従業員数を[外書]して記載
事業概要	土木工事及び建築工事に関する設計及び請負、不動産関連業務、土壌浄化等の環境保全、売電事業他
環境レポートの発行にあたって	本レポートは社内に限らず、多くの皆様に日本国土開発株式会社の環境保全、社会活動の状況を開示する目的で作成しました。
対象範囲	日本国土開発株式会社 本社・国内事業所 (海外の活動については実績数値報告に含みません)
対象期間	2018年6月1日～2019年5月31日 (当社会計年度)

目次

ごあいさつ.....	01
環境保全のあゆみ.....	02
トピックス	
◆ “CASBEE Sランク”に認証登録した環境配慮型 研究施設「つくば未来センター」が竣工・開所..	03
◆ 「ハイブリッドエポキシ樹脂」が近畿地方整備局 のイノベーション部門で優秀賞	04
◆ 「回転式破碎混合工法 (ツイスター工法)」が “技術情報誌NETISプラスに掲載” ...	05
◆ 工事仮囲いの緑美化 (美装化) により 台湾 新北市府より表彰	06
環境マネジメントシステム (ISO 14001)	07
◆ 品質環境方針.....	08
◆ 環境目的.....	08
環境目標の実績(2018年度)と計画 (2019年度)	
1 建設副産物の発生抑制及び再資源化.....	09
2 地球温暖化防止.....	09
3 グリーン購入の推進.....	10
4 環境配慮設計、環境関連技術提案の推進.....	10
5-1 オフィスの省エネルギー (電気使用量)	11
5-2 オフィスの省エネルギー (OA用紙使用量)	12
5-3 オフィスの省エネルギー (環境保全型事務用品) .	12
6 その他 実施項目の中で数値化された事項への対応について...	13
◆ 2019年度環境目的・環境目標・実施項目 (手段)	13

環境保全への取組み

- ◆ 省燃費運転研修の開催、研修修了証の交付..... 14
- ◆ 災害廃棄物の焼却・減容化後の
「主灰封入装置」の開発・実施
- ◆ 環境教育、環境に関する啓蒙、指導..... 15
- ◆ 環境コミュニケーション..... 16
- ◆ 快適な職場環境の形成

社会・地域貢献活動

- ◆ 「西日本豪雨被害支援活動」に対し感謝状
(大阪支店 中国営業所)
- ◆ 「あかりのファンタジーイルミネーションinおだか」
に参加 (東北支店 南相馬廃棄物業務作業所) .18
- ◆ 「第一回福島植樹祭～ABMORI～」に参加
(東北支店) 19
- ◆ 「大阪府北部地震 茨木市災害ボランティア活動」
報告 (大阪支店) 19



ごあいさつ

わが国の経済は、雇用、所得環境が改善する中、景気はゆるやかな回復基調が続いております。建設市場も政府建設投資、民間建設投資が堅調に推移し、当社も業績を前倒しで達成いたしました。

一方、国内建設市場は新規投資からストック維持・更新へと需要の質的变化が加速、建設業就労者不足への懸念、働き方改革関連法への対応、また持続可能な開発目標（SDGs）に向けた様々な取組が企業にも求められております。

今期を初年度とする“新中期経営計画MOVE75”の中に、当社の経営理念『わが社はもっと豊かな社会づくりに貢献する』のもと、SDGs（持続可能な開発目標）、環境、社会をより意識した目標を取り入れました。国内では再生エネルギー（太陽光、小水力）発電所の自社事業としての展開・建設、海外においては安全な水資源の確保への試み等、また事業を通じた社会貢献にも積極的に取り組み、持続可能な社会、恵み豊かな環境を次世代に継承する企業を目指します。ここに環境に関する当社の活動状況を公開する目的で、この環境レポートを年次報告書として発行します。

将来の事業戦略と技術戦略、新事業の創出のためオープンイノベーションをコンセプトに“つくば未来センター”を設立しました。これからの未来に必要な事業、技術をここから生み出していきます。その中核施設となる建物は、環境に配慮した省エネと自然エネルギーを利用、知的生産性を向上させる執務環境を創出し、災害時にもその機能を維持させるBCP装備等を備え、CASBEEのSランクに認証登録しました。（表紙、本文p3）

平成30年度近畿地方整備局研究発表会のイノベーション部門において優秀賞を受賞した“ハイブリッドエポキシ樹脂”（NETIS登録 HK-170005-A）はエポキシ樹脂に塩分吸着剤機能性材料（当社開発）を添加し、ひび割れに浸透し、また断面修復材として鉄筋腐食抑制効果を発揮します。塩害環境下にある鉄筋コンクリート構造物の延命化技術としてご紹介いたします。（本文p4）

従来工法では施工が困難な高含水比粘性土を土砂改良する技術である“回転式破碎混合工法”について、在タイ日本国大使館において技術プレゼンした様子、および同工法の採用現場から、江別太遊水地の土地改良工事の記事2件が「技術情報誌NETISプラス」に掲載されました。（本文p5）

台湾の台北市のベッドタウンとして都市化が進む新北市にて、当社は高層集合住宅を建設中です。新北市は市管轄内の工事の公共安全、交通、衛生及び環境向上を目的とする表彰制度を設けておりますが、この度地域環境に配慮した工事仮囲いの緑美化（美装化）について表彰を受けました。（本文p6）

当社が培ってきた豊富な経験と実績を活かしつつ、新しい事業にも積極的に挑戦し、地球環境の改善と人と自然と文化が調和した快適環境を創造する企業を今後も目指していきたいと考えておりますのでご指導とご理解をお願いいたします。



2019年9月
日本国土開発株式会社
代表取締役社長

朝倉 健夫

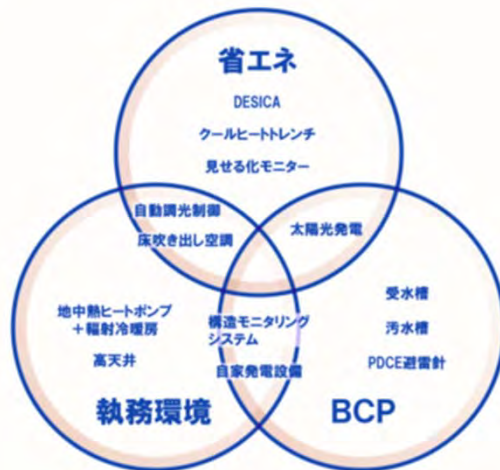
環境保全のあゆみ

当社は1992年、環境問題の基本方針を策定する組織を本社に置き、「環境保全行動指針」を取りまとめました。その後の環境保全への取り組みを紹介します。

当社の環境保全のあゆみ		環境に関する社会の動き
本社にER (Environment&Resources)企画委員会*、本社各本部及び各支店にER推進委員会を設置。 *環境問題の基本方針を策定する組織	1992	
「環境保全行動指針」を策定(環境理念、基本方針、行動指針を設定) 名古屋支店春日井共同溝作業所がリサイクル推進協議会会長賞を受賞 第2回地球環境大賞において「地球環境貢献企業」に選ばれる	1993	環境基本法制定
マレーシア国トレンガヌ州で熱帯雨林再生プロジェクト(植林)を開始 天井輻射冷暖房システム「ほほえみっと」が省エネルギーセンター会長賞を受賞	1994	
「環境管理マニュアル」を発行(環境重点目標を設定) 「環境レポート」を発行 第4回地球環境大賞において「地球環境貢献企業」に選ばれる	1995	
第5回地球環境大賞「経団連会長賞」を受賞	1996	環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001定められる
第1回環境アクションプラン大賞において特別賞「毎日新聞社賞」を受賞	1997	COP3(地球温暖化防止京都会議) 京都議定書を採択
名古屋支店ISO 14001認証取得 第1回環境報告書賞優良賞および特別賞を受賞 第2回環境アクションプラン大賞において特別賞を受賞	1998	家電リサイクル法制定 地球温暖化対策推進法制定
熱帯雨林再生プロジェクトの植林事業を終了しトレンガヌ州政府に返還 第2回環境報告書賞において特別賞を受賞	1999	ダイオキシン類対策特別措置法制定
マレーシア政府より熱帯雨林再生事業に対して感謝状	2000	循環型社会形成推進基本法制定 グリーン購入法制定
東京支店ISO 14001認証取得	2001	環境省が発足 フロン回収破壊法制定
札幌支店、大阪支店ISO 14001認証取得	2002	
東北支店ISO 14001認証取得	2003	
ISO 14001全社統合で認証取得	2005	
	2008	生物多様性基本法制定
「シェルコンクリート」が平成22年度リユース・リユース・リサイクル推進功労者表彰「国土交通大臣賞」及び「平成22年度循環型社会形成推進功労者環境大臣賞」を受賞	2010	COP10開催 名古屋議定書と愛知ターゲット採択
大阪支店京都松尾作業所が「平成22年度近畿建設リサイクル表彰」において会長賞を受賞	2011	COP17開催(ダーバン) 京都議定書の延長と、2020年に温室効果ガス削減のための新枠組みを発効させることを合意
	2015	COP21開催 パリ協定を採択
ISO 14001:2015 移行認証取得	2017	

トピックス

◆ “CASBEE Sランク”に認証登録した環境配慮型研究施設
「つくば未来センター」が竣工・開所

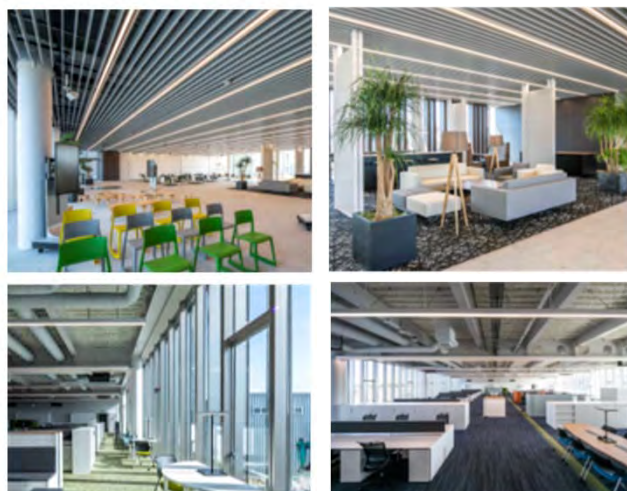
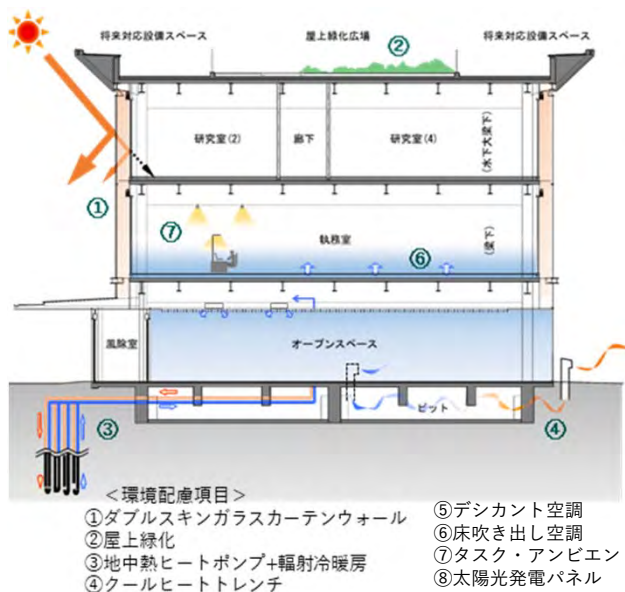


<オープンイノベーションを実現する研究施設>

本建物は、従来の技術研究所の概念を超え、「価値ある事業の構築」「オープンイノベーションの創出」という目的を体現する建築を目指しました。アルミカットパネルの大きなフレームの中に、ガラス張りの建築物を内包させたシャープなデザインが特徴です。1階は情報発信・交流フロア、2階は事務・執務フロア、3階に研究フロアと、階毎に機能を分け、陽光が降り注ぐ明るく広く快適な執務環境を提供しながら、外部へは様々な人の動きが映し出されることでしょうか。ラボは必要な大きさに間仕切できるように自由性を持たせています。社員の執務環境を第一に、将来の可変性に配慮した施設づくりを目指しました。

<未来の事業を育む環境配慮型研究施設>

本施設に導入した技術は「省エネ」「執務環境の向上」「BCP対策」に分類されます。ダブルスキンガラスカーテンウォールによる外気熱負荷コントロール、年中一定温度の地中熱を熱源とした輻射冷暖房システム、クール・ヒートトレンチ、自動調光制御、太陽光発電設備など様々な自然エネルギーと省エネ技術を採用し、地球環境に配慮した施設を目指しました。これに加え内部と外部の環境を整備しCASBEE（建築環境総合性能評価システム）「Sランク」を取得しました。



◆ “ハイブリッドエポキシ樹脂”が近畿地方整備局のイノベーション部門で優秀賞



“ハイブリッドエポキシ樹脂”は平成30年度国土交通省近畿地方整備局研究発表会、イノベーション部門で優秀賞を受賞した、塩害環境下の鉄筋コンクリート構造物の延命化技術です。



< “ハイブリッドエポキシ樹脂”とは >

・ 利用目的

ハイブリッドエポキシ樹脂は従来のコンクリート補修材であるエポキシ樹脂に、塩化物イオンを吸着する機能性吸着材を添加した材料です。塩化物イオンに代わり機能性吸着材に保持されていた硝酸イオンが交換放出され、鉄筋の腐食を抑制します。塩害環境下の鉄筋コンクリート構造物の劣化や再劣化対策を目的に使用します。

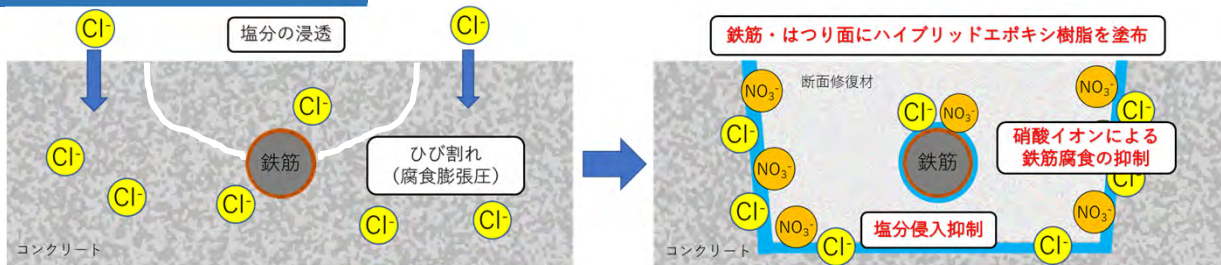
・ 適用箇所

ハイブリッドエポキシ樹脂は飛来塩分や凍結防止材散布による塩害環境下における港湾構造物や橋梁などの補修材料に使用します。

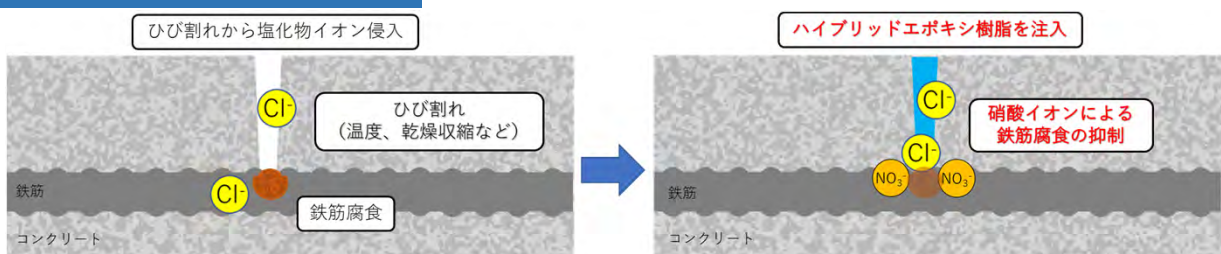
・ 適用工法

ハイブリッドエポキシ樹脂は断面修復工の鉄筋防錆材及びプライマーや、ひび割れ注入材、また床版複合防水工の浸透系防水材として適用できます。

断面修復工への適用イメージ



ひび割れ注入材への適用イメージ



ハイブリッドエポキシ樹脂の適合規格

- JIS A 6024……「建築補修用注入エポキシ樹脂硬質形エポキシ樹脂の品質 低粘度形 冬用」に適合
- NEXCO構造物施工管理要領…「ひび割れ注入工法用エポキシ樹脂系ひび割れ注入材の品質規格の1種」に適合
- NEXCO構造物施工管理要領…「鉄筋防錆材」に適合

◆ “回転式破碎混合工法（ツイスター工法）”がNETISプラスに掲載（新技術情報データベース）

NETISプラス（（一財）先端建設技術センターが運用する“新技術情報データベース”）第14号2018秋号に、当社の取り組み2件が掲載されましたのでご紹介致します。



<バンコク開催の技術セミナーで“ツイスター工法”をプレゼン>

—ACTEC新技術海外展開支援活動—

（一財）先端建設技術センター主催の「Seminar on Construction Technology in Thailand 2018」に公募した13技術の中に、ツイスター工法が選定され、2018年7月、在タイ日本国大使館セミナーホールにてプレゼンを実施しました。このセミナーはタイの技術ニーズにマッチした日本の建設関連技術を紹介するものです。ツイスター工法は、従来工法では改良困難なバンコククレイ（高含水比粘性土）を大量連続また高品質に改良する技術として、注目を集めました。このセミナーの内容は、“NETISプラス 第14号2018秋”に掲載されております。

土木事業本部土木部 ツイスター事業推進室 大坪 研二



NETISプラス 第14号2018秋号 p12,13より プレゼンする 大坪社員

<ツイスター工法：概要>

“ツイスター工法”は、円筒内で高速回転する複数本のフレキシブルなチェーンの打撃力で、23種類の建設発生材の破碎・細粒化（破碎）と共に、材料が均一に分散されることで、破碎と混合を同時に行います。また、従来工法で対応できない（バンコククレイのような）高含水比粘性土も、均質に効率よく改良できる画期的な土砂改良技術である

<高含水比の粘性土を高品質な盛土材に変える“回転式破碎混合工法”の採用現場>

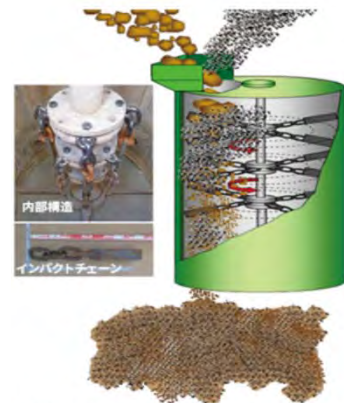
—江別太遊水地の土地改良工事を訪ねて—

回転式破碎混合工法研究会の会員である道路工業(株)が施工する江別太遊水地の土地改良工事が（一財）先端建設技術センターの取材を受け、この内容が、“NETISプラス 第14号2018秋”に掲載されました。この現場は、遊水地工事内の掘削により発生する高含水比粘性土を堤防盛土材として再利用するため、“回転式破碎混合工法”で土砂改良を行いました。今後もあらゆる建設発生土をリサイクルする本工法を通して、環境負荷低減を図っていきます。

回転式破碎混合工法研究会事務局 弓賀 都



NETISプラス 第14号2018秋号 p17,18より



NETIS登録番号KT-090048-VE
平成28年度準推奨技術
(国土交通省 新技術活用システム検討会議)
活用促進技術
(東北地方整備局 新技術活用評価会)

◆ 「工事仮囲いの緑美化（美装化）」により台湾 新北市政府より表彰
 <台湾支店 筑丰汐止住宅作業所>

2018年（中華民国107年）10月24日、台湾支店 筑丰汐止住宅作業所の工事仮囲いの緑美化（美装化）の取組みに対して、新北市政府より表彰を受けました。新北市政府が進める工事仮囲いの緑美化（美装化）運動は、市管轄内の工事の公共安全、交通、衛生及び環境向上への取組みとして行われております。



工事現場の仮囲いの緑美化①



工事現場の仮囲いの緑美化②



表彰式の様子 (右) 大倉支店長



<大倉台湾支店長 受賞コメント>

工事場所は台北市に隣接するベッドタウンの新北市に位置します。この度の表彰は、新北市政府より、当社の工事仮囲いの緑美化（美装化）を対象として行われました。同席したお客様からも高い評価を頂き、大変光栄なことと感じます。現場で切磋琢磨している社員をねぎらうと共に、竣工まで支店一丸となり頑張りますので皆様のご支援の程宜しくお願い致します。



完成予定図（パース）

<工事概要>

発注者 筑丰興業股份有限公司
 工事名 筑丰興業汐止區厚德段住宅大樓新建工程
 用途 分譲マンション RC造 地下5階 地上28階
 3~28階：集合住宅 241戸、1~2階：集合住宅附属施設
 地下 駐車場、防空避難室
 敷地面積3,596.87㎡、建築面積1,143.85㎡、
 延床面積16,541.08㎡
 施工床面積33,168.95㎡
 地上高95.75m+9m、地下19.7m+2.9m、建蔽率31.8%、
 容積率459.87%



環境マネジメントシステム (ISO 14001)

当社は、環境保全活動をより推進するために、1998年より環境マネジメントシステム (ISO 14001) の取組みを始め、2004年からは全社一体で運用しています。

取り組み体制

本社に環境管理責任者、中央環境委員会、事業部には環境委員会を設置して、全社での取組みを推進しています (図1)。

品質環境方針・目的・目標の展開

社長の品質環境方針のもと、全社で設定した環境目的に基づき環境目標を展開しています。環境目的、環境目標の実施計画として、環境管理計画表を作成して運用しています (図2)。

外部審査

外部審査は、2018年9月19日～25日に実施されました。

審査機関：一般財団法人 建材試験センター

審査対象：本社、東日本事業部、支店及び所属作業所、
西日本事業部、支店及び所属作業所

審査結果：不適合 0件、観察事項 0件

2018年10月22日付で認証の維持継続が承認されました。

内部監査

環境マネジメントシステムの運用状況を確認するために、内部監査を実施しています。頻度は、本社・事業部部門は年1回、作業所は原則、工期中に1回です。監査はISO 9001品質マネジメントシステムとの複合監査で行います。

2018年度の監査実績 (2018年6月1日～2019年5月31日)

実施件数 本社・事業部部門：35回、作業所：51回

指摘件数 不適合：5件、観察事項：72件

(* 観察事項：不適合ではないが改善することが望ましい指摘、環境に対する影響が小さいと判断できる指摘)

不適合の内容はすべて軽微なものでした。内部監査の結果は分析し、マネジメントレビューのインプット情報として報告し、システムの改善、業務の効率化を図っています。

マネジメントレビュー

(社長によるマネジメントシステムの見直し)

事業部の環境委員会の報告事項、検討結果及び本社各部門の報告をインプット情報として、本社において中央環境委員会を開催し、マネジメントシステムの見直しを検討します。その後社長によるマネジメントレビューを行います (図3)。

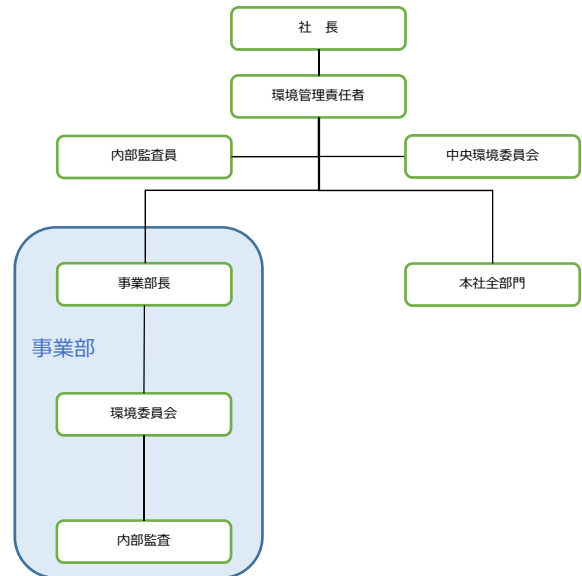


図1 環境マネジメントシステム取組み体制

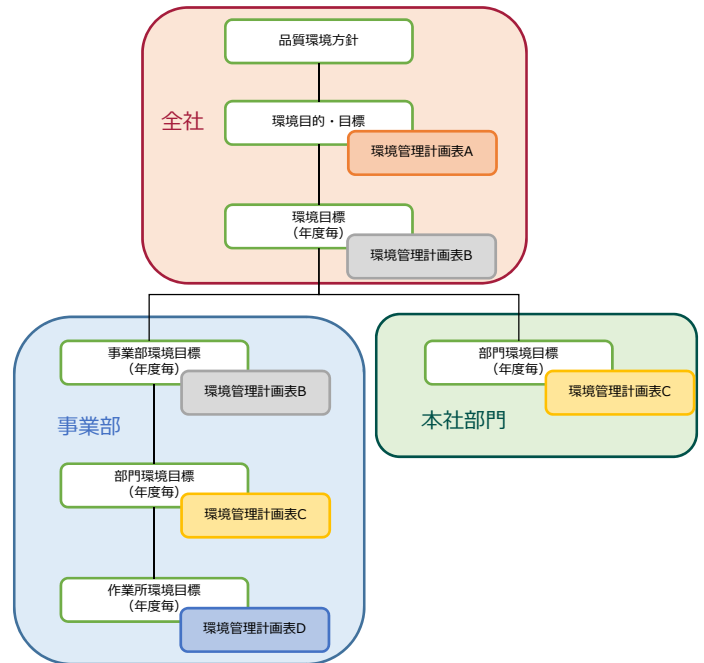


図2 環境方針・目的・目標の展開

事業部の環境委員会での検討

本社中央環境委員会での検討

社長による見直し・指示

図3 社長によるマネジメントシステムの見直し

◆ 品質環境方針

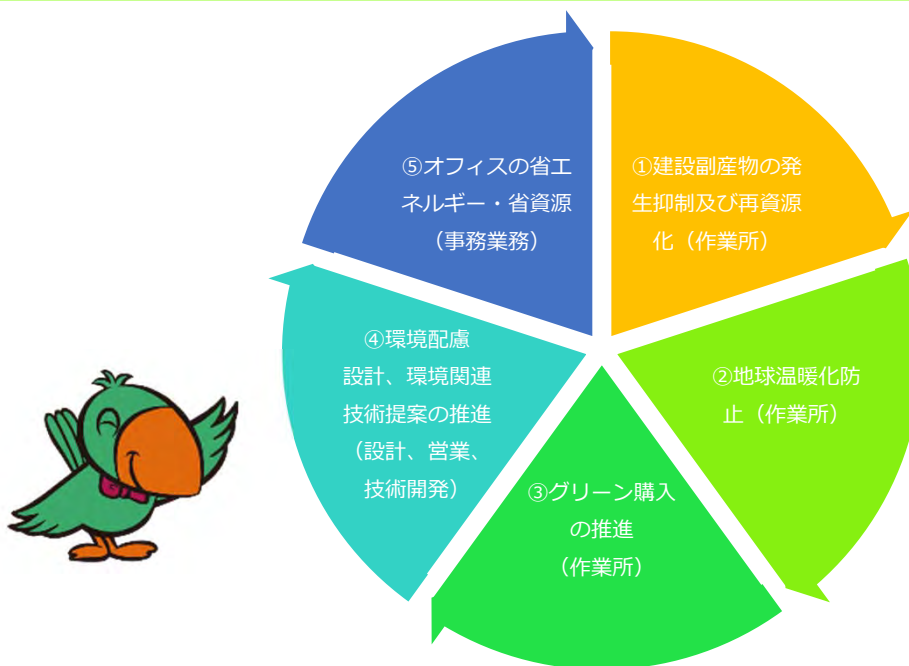
環境に配慮した活動で、高品質の構築物を提供し、社会に貢献すると共に、持続可能な企業への発展を図る。

活動指針

1. 顧客満足の上を目指す。
2. 法的要求事項、顧客要求事項及び当社が同意するその他の要求事項を確実に満たす。
3. 環境汚染の予防、温暖化対策、建設副産物対策、並びに生物多様性の保全及び持続可能な利用に積極的に取り組む。
4. 環境配慮設計、環境配慮技術の提案、開発及び事業活動を通してSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向け取り組む。
5. マネジメントシステムのパフォーマンス及び有効性を改善する。

日本国土開発株式会社
代表取締役社長 朝倉 健夫

◆ 環境目的

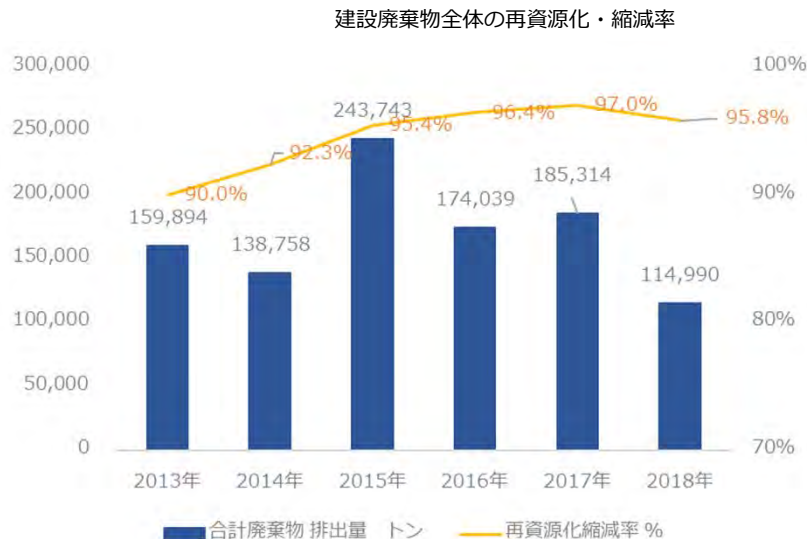


環境目標の実績(2018年度)と計画 (2019年度)

※作業所の数量は、当社が単独、又は共同企業体の幹事会社として施工した工事におけるものです。

1 建設副産物の発生抑制及び再資源化

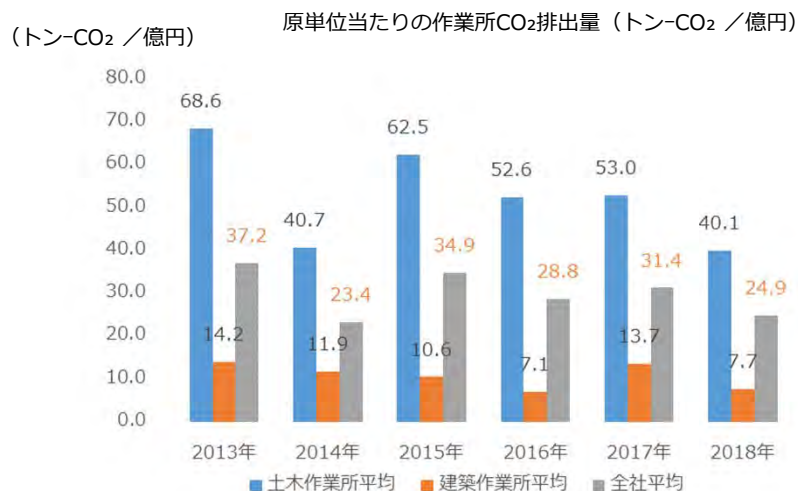
目標 建設廃棄物全体の再資源化・縮減率 96% (作業所)



『建設リサイクル推進計画2014 (国土交通省)』が提唱する再資源化・縮減率の目標 (96%) を今期も継続するが、今期計画に“現場分別”の徹底を実施項目に定め、再資源化・縮減率の向上を図ります。

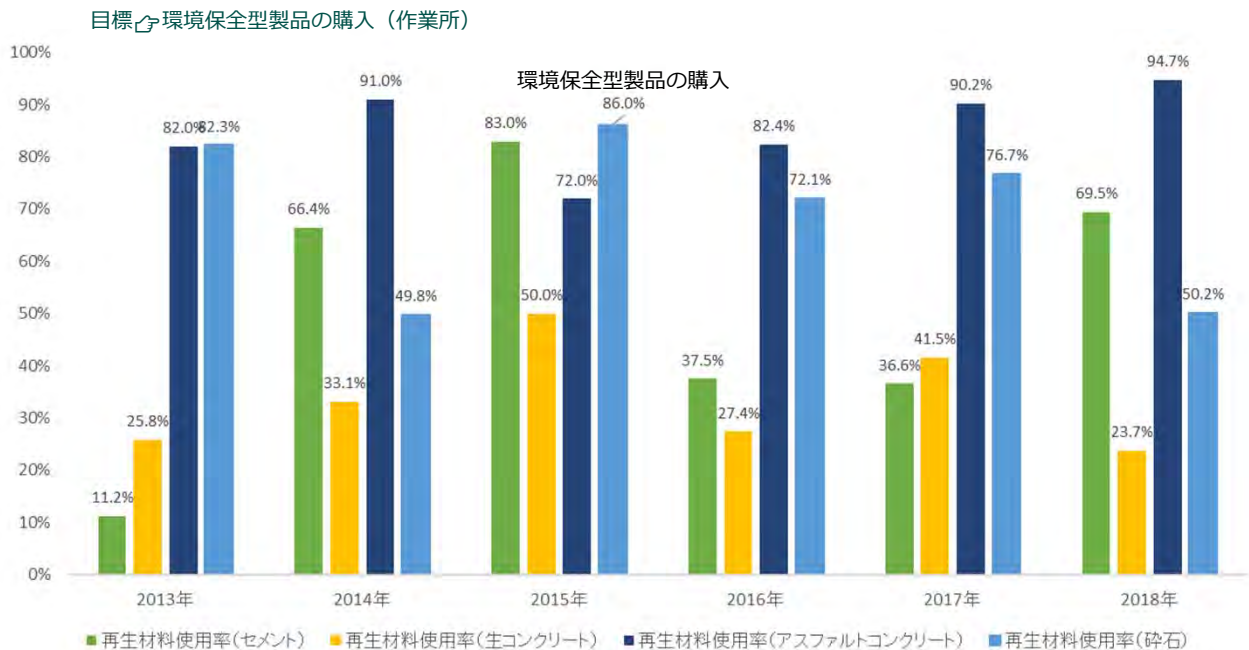
2 地球温暖化防止

目標 作業所CO₂排出量 28,120kg<28.12t>-CO₂/億円以下 (作業所)



土木、建築のデータ共に漸減傾向にあり、目標も達成しました。

3 グリーン購入の推進



作業所においては、環境省『グリーン購入ガイドライン』に基づき、セメント、生コンクリート、アスファルトコンクリート、砕石の4品目を対象とし、再生材料使用率をグリーン購入率として集計しております。

4 環境配慮設計、環境関連技術提案の推進

環境配慮設計

目標 環境に配慮した設計の推進（設計部門）

<建築>

環境配慮設計を12件（昨年15件）：東日本7件、西日本5件 実施。

つくば未来センター二期工事にて CASBEE Sランクを登録

<土木>

環境配慮設計を 16件（昨年10件）：本社 12件、西日本 4件 実施。

環境関連技術提案

目標 環境関連技術営業の推進（営業部門）

- 土壌汚染対策調査、工事受注 15件 受注金額 888（百万円）
- ツイスターによる改良土工事受注 6件 受注金額 661（百万円）
- 太陽光発電事業への取組み 65件（2019年6月現在累計、施工中を含む）
- フォーラム・フェア出展等 8回

バンコク開催の技術セミナーでツイスター工法をプレゼン他

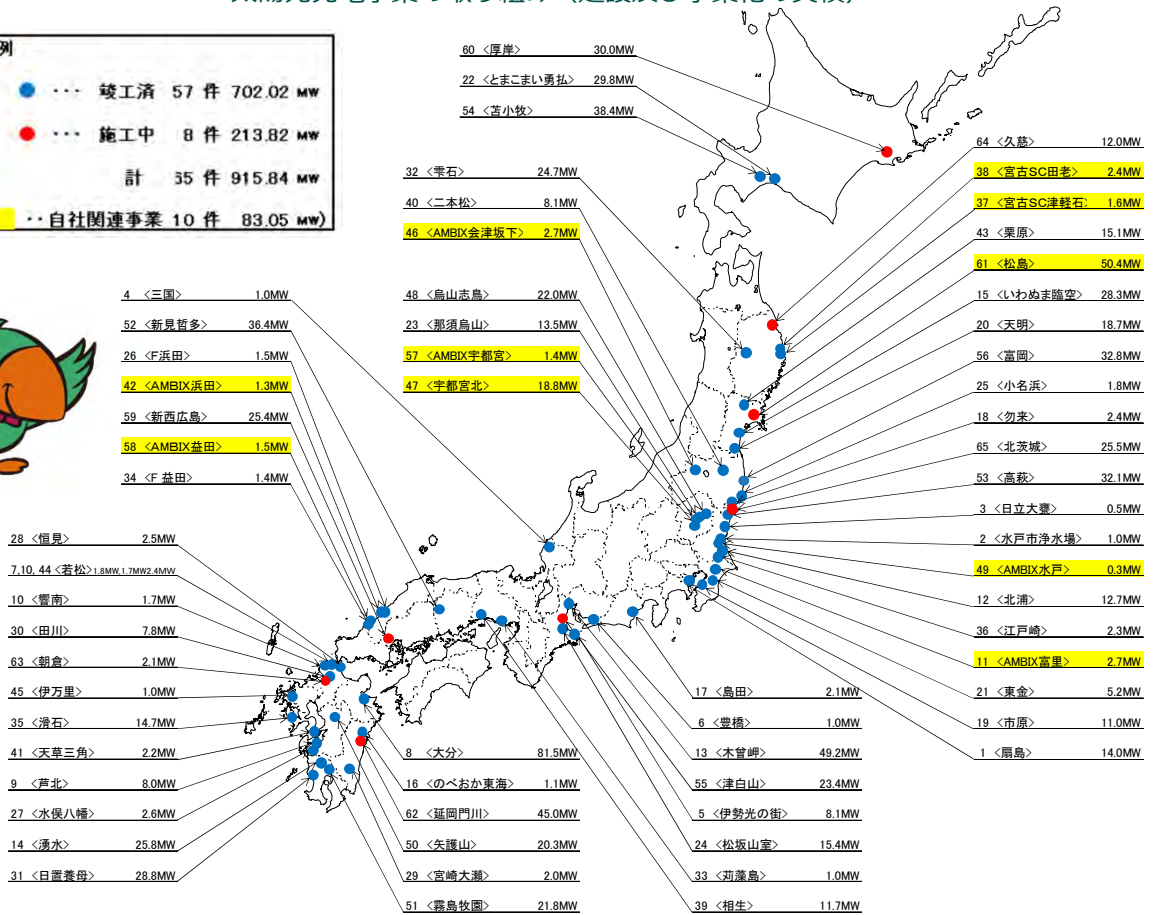
次頁に太陽光発電事業への取組み実績を掲載します。



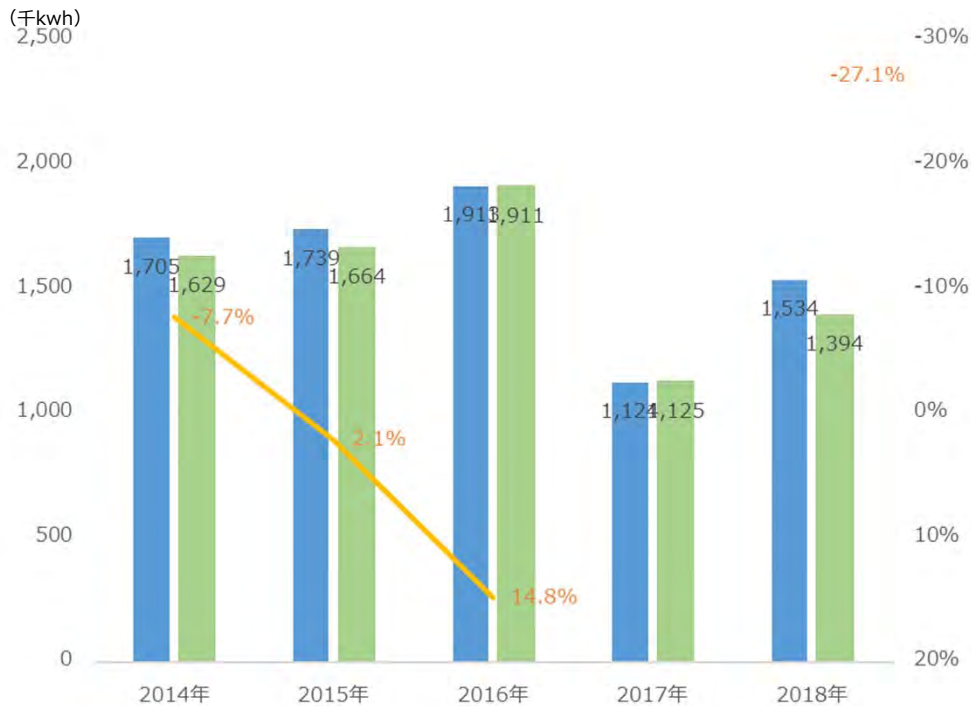
太陽光発電事業の取り組み（建設及び事業化の実績）

凡例

- ... 竣工済 57 件 702.02 MW
- ... 施工中 8 件 213.82 MW
- 計 35 件 915.84 MW
- (内) ● ... 自社関連事業 10 件 83.05 MW

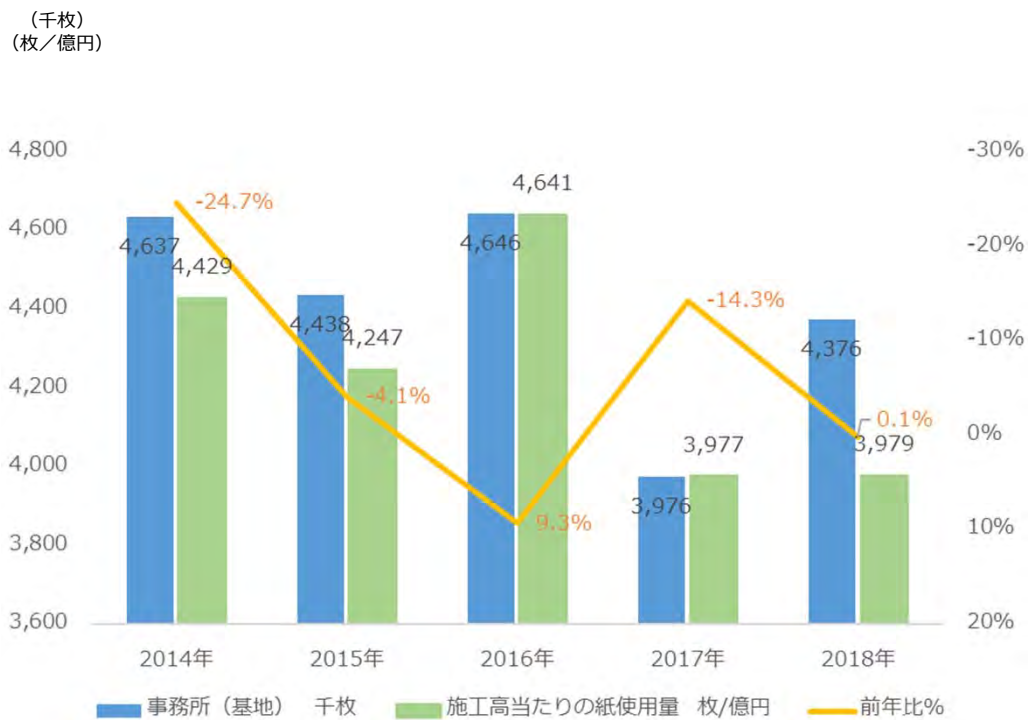


5-1 オフィスの省エネルギー（電気使用量）

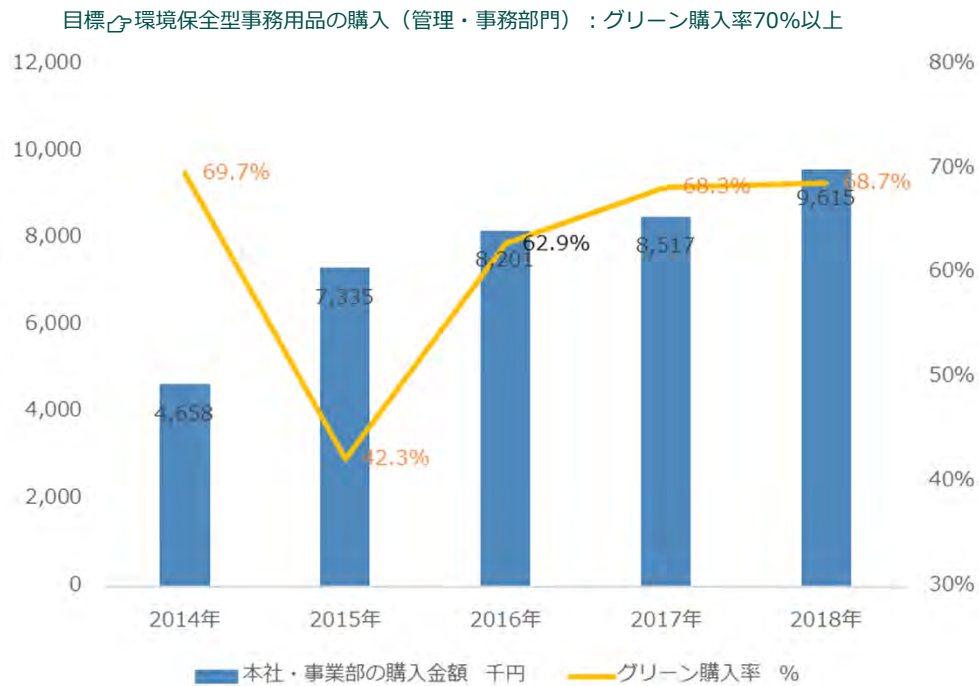


■ 事務所電気使用量 千kWh ■ 施工高当たりの電気使用量 kWh/億円 — 前年比%
 2017年は一部施設の更新のための休止期間となり、前年比は2016年の値と対比した。

5-2 オフィスの省エネルギー（OA用紙使用量）



5-3 オフィスの省エネルギー（環境保全型事務用品）



オフィス環境（デザイン、電子化、LED化等）の大幅な刷新により購入金額は増加した。

6 その他 実施項目の中で数値化された事項への対応について

	目標値	実績値	摘要	
建設混合廃棄物率	3.5%以下	6.3%	土 木 建 築	8.8% 4.0%
発生土有効利用率	80%以上	97.4%	-	



土木作業所において土中から、多量の廃棄物が見つかり、混合廃棄物として処理したことが影響。

◆ 2019年度環境目的・環境目標・実施項目（手段）

照明のLED化、タブレット使用による会議のペーパーレス化、決済の一部電子化等を通じたオフィスの省エネルギー化を進めております。

	環境目的	環境目標	実施項目（手段）
1	建設副産物の発生抑制及び再資源化	<ul style="list-style-type: none"> 建設廃棄物の再資源化・縮減の徹底（建設廃棄物全体の再資源化・縮減率 96%）（作業所） 建設発生土の有効利用 	施工計画による発生抑制 再資源化計画の立案・実施 現場分別の徹底 特定建設資材廃棄物の分別他（混合廃棄物率 3.5%以下） *混合廃棄物率=混合廃棄物量/全廃棄物量 新築工事の混合廃棄物発生原単位排出量10kg/m ² 以下 *混合廃棄物発生原単位=混合廃棄物量/延床面積 適正処理の推進（電子マニフェスト等の普及、優良業者への委託、処理施設の点検・確認） 有効利用率の向上（建設発生土有効利用率 80%以上） *有効利用率=(現場内利用+工事間利用)/発生土
2	地球温暖化防止	<ul style="list-style-type: none"> CO₂排出量削減 CO₂排出量 28,120kg-CO₂/億円以下（作業所） 参考：2017年度 日建連 土建別 ・土木 63,048kg-CO ₂ /億円以下 ・建築 11,620 "	施工計画による機器の適正使用 省燃費運転教育の実施 省燃費運転の実施 アイドリングストップの実施 エネルギー効率の良い機器の使用 作業所CO ₂ 排出量の集計 CO ₂ 削減に対する様々な取組
3	グリーン購入の推進	<ul style="list-style-type: none"> 環境保全型製品の購入（砕石、アスコン、生コン、セメントのグリーン購入）（作業所・購買部） 	環境保全型製品の購入 環境保全型製品の使用の提案
4	-	<ul style="list-style-type: none"> 環境に関する公衆災害の防止（作業所・施工部門） 法規制、条例、その他要求事項の順守 	予防処置の徹底 火災事故の予防（管理体制、手順の確立） 関係法定等の特定～点検～監視の徹底 * 作業所点検、産廃パトロール、店社による監視
5	環境配慮設計、環境関連技術提案の推進	<ul style="list-style-type: none"> 環境に配慮した設計の推進（設計） 環境関連技術営業の推進（営業） 	顧客に環境配慮設計を提案 営業活動において積極的に顧客要求を把握し、適切な技術を提案
6	オフィスの省エネルギー・省資源	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー使用量の削減（原単位当たり使用量 昨年度比1%削減） OA用紙使用量の削減（原単位当たり使用量 昨年度比2%削減） 環境保全型事務用品の購入（購入金額の70%） 	休憩時間の消灯 空調機器の温度管理 エネルギー効率の良い機器の使用 イントラ、モバイルPC利用によるペーパーレス化 両面、縮小によるコピー・プリントアウト 再生紙・エコマーク製品・省エネ型OA機器の購入 環境保全型事務用品のグリーン購入率の集計

環境保全への取り組み

◆ 「省燃費運転研修の開催および研修終了証交付」

< 東郷作業所 >

建設現場から発生するCO₂の約7割が軽油に起因しています。省燃費運転で走行・作業の無駄がなくなることで、燃費改善とCO₂排出抑制だけでなく、重機や車両の長寿命化、事故防止にも効果があります。このような観点により、当社は省燃費運転研修実施を環境管理計画の中でCO₂排出抑制目標の実施項目に定めております。

今回は、2019年3月25日、東郷作業所にて開催した「省燃費運転研修（座学）」について報告します。当日は6社、29名が研修会に参加、省燃費運転研修DVDの視聴、簡単な理解度テストを行い、修了証を交付しました。



省燃費運転研修DVDの視聴

修了証の交付

■ 修了証ダンブ・トラック (49×80mm)



省燃費運転研修会資料

(日本建設業連合会 教材)

表面	裏面
<p>省燃費運転研修会 修了証</p> <p>会社名 □□□□□□□□</p> <p>氏名 ○○ ○○ 殿</p> <p>貴殿は、△△△△△△△△△△△△の省燃費運転研修会に参加し、その全課程を修了したことを証明します。</p> <p>平成 25 年 00 月 00 日</p> <p>△△△△△△△△△△</p>	<p>省燃費運転のポイント</p> <p>***ダンブ・トラックの省燃費運転のポイント***</p> <p>①不要なアイドリングを避ける！ ②空ぶかしや急発進・急加速はしない！ ③グリーンゾーン(1200~1500rpm)で運転！ ④シフトアップは早めに、シフトダウンは遅めに！ ⑤惰力走行は、燃料噴射ゼロ！ ⑥経済速度での走行！ ⑦波状運転はしない！</p>

省燃費運転研修会 修了証 (日本建設業連合会 開示資料参照)



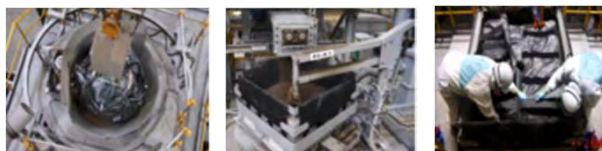
◆ 「災害廃棄物の焼却・減容化後の主灰封入装置の開発、封入装置の操業・運転」

< 南相馬主灰封入作業所 >

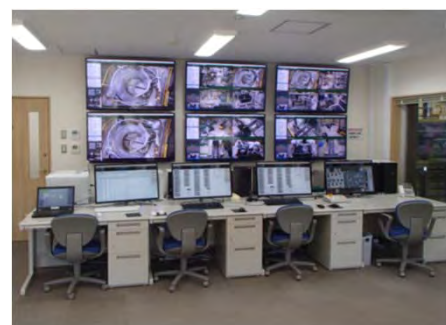
東日本大震災で発生した災害廃棄物の焼却・減容化後の“主灰”は放射能・ダイオキシン類を含有するため、封入作業時の周囲環境への影響軽減を目的として、仮保管袋の破袋～防水型収納容器への封入までを半自動機械化する技術を開発し、封入業務を行いました。

環境省の本省、出先機関の方々をはじめ、その他関係諸団体からの多数の視察者から高い評価を得ました。

・封入設備能力：約59t/日 ・処理実績：24,000t



破袋・破碎⇒転圧・供給・敷き均し⇒梱包



中央監視室モニター全景

◆ 環境教育、環境に関する啓蒙、指導

社員研修

環境マネジメントシステムの手順の習得や、環境法規制の知識の向上を目的とした社内研修を実施しています。

- ・ ISO 14001内部監査員研修
- ・ 環境マネジメントシステム研修
- ・ 環境法規制に関する研修
- ・ 省燃費運転研修（研修修了者に対して終了証の授与）

環境ニュース

環境ニュースを社内イントラネットに掲示し、環境関連法規制等の環境に関する情報提供を行っています。

環境表彰

環境保全の取組みを奨励するため、環境保全活動で成果を上げた個人、作業所、部門等及び協力会社を対象として「環境表彰」を実施しています。

2018年度表彰について

環境優良賞

東日本建築事業部（東京） 設計部 つくば未来センターの設計 CASBEE Sランク登録

環境貢献賞 5作業所

東日本土木事業部（東北）原燃アクセスルート作業所

西日本建築事業部（名古屋）角文刈谷銀座作業所、（大阪）ユニハイム福島作業所、シエリア高津作業所

西日本土木事業部（大阪）古市場トンネル作業所

環境功績者賞 1名

西日本建築事業部（大阪）井上雄一郎（コーナン加古川作業所）

環境VE賞

東日本建築事業部（東京）林泉寺作業所

東日本土木事業部（東北）南相馬主灰封入作業所、（東京）野川大沢調節池作業所

環境標語

環境保全活動に関する標語を広く社員、協力会社従業員から募集し、年度の「環境標語」を選定し、垂れ幕にして全国の作業所等に掲示し、環境活動に対する意識の向上を図っております。



2019年度の環境標語

「温暖化を ストップさせよう アイドリング
みんなのできる 環境保護」

西日本土木事業部 土木部（名古屋）大府北崎造成作業所 田邊義彦社員

今年度は全国から975点の応募を頂きました。ご協力、有難うございました。

応募作品数	東日本		西日本			本社	計
	東北	東京	名古屋	大阪	九州		
応募数	391	91	104	266	103	20	975

◆ 環境コミュニケーション

「2018建設リサイクル技術展示会」において「技術展示の優秀賞」を受賞

<回転式破碎混合工法研究会>

2018年10月9～10日に開催された九州建設技術フォーラムと同時開催した「2018年建設リサイクル技術発表会・技術展示会」に“回転式破碎混合工法研究会”として出展しました。同展示会に出展した24団体より“回転式破碎混合工法研究会”を含む4団体が「技術展示の優秀賞」に選定されました。



【審査員】

- ・建設副産物リサイクル広報推進会議会長
- ・国土交通省大臣官房 技術参事官
- ・九州地方建設副産物対策連絡協議会幹事長



技術発表会及び展示ブースの様子

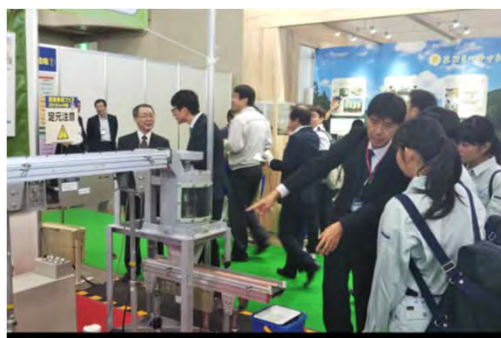
「建設技術フェア2018in中部」への出展、及び長期出展者として感謝状を受領

<名古屋事業所>

2018年10月17・18日、「建設技術フェア2018in中部」が名古屋市中小企業振興会館【吹上ホール】にて、開催されました。

当社からは、i-Construction技術及びあらゆる建設発生土をリサイクルする技術“回転式破碎混合工法（NETIS登録番号 KT-090048-VE）”についてパネル、モデル機と共に展示しました。当日は大学、官公庁等の多数の皆様方が訪れ、熱心に説明を聞かれました。

また、当社は出展回数が15回以上となる企業者として、国土交通省中部地方整備局長様より、感謝状をいただきました。今後も環境保全、生産性向上技術を積極的にアピールしていきます。



「建設技術フェア」出展状況



長期に亘る出展者として感謝状を受領

◆ 快適な職場環境の形成

“「えるぼし」2段階目（★★）” の認定を受けました

「えるぼし認定」とは、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」に基づき、一定の基準を満たし、女性の活躍推進に関する状況などが優良な企業を認定する制度です。当社が取り組んでいる女性活躍推進に関する活動が厚生労働省から高く評価されたものです。認定段階は3段階あり、当社はゼネコンでは最高（2019年5月現在）の2段階目の評価を受けました。

主な認定基準（女性が能力を発揮しやすいか）

- ・採用
- ・継続就業
- ・労働時間等の働き方
- ・管理職比率
- ・多様なキャリアコース



2段階目

女性活躍推進法に基づく
認定マーク「えるぼし」



“「けんせつ小町工事チーム」に登録されました

（一社）日本建設業連合会が女性活躍推進を目的として展開している「けんせつ小町工事チーム」に、2019年4月22日付で当社の2工事現場が登録されました。

「けんせつ小町工事チーム」とは、工事現場において女性技術者および女性技能者が多数施工に従事しているチームのことをいいます。当社では女性が多数の職種、職場で生き生きと活躍しております。



チーム“あねっこ雨宮”の
福山 涼さん（東北建築部）



チーム“コクド 熊谷小町”の伊
藤 和代さん（東京建築部）



“「設計部 米岡真奈美社員 輝け！けんせつ小町」に掲載されました

（一社）日本建設業連合会が発行している“ACE”4月号に「輝け！けんせつ小町」として、設計部 米岡真奈美社員が、設計を担当した“つくば未来センター”と一緒に掲載されました。



設計担当した“つくば未来センター”と米岡社員

社会・地域貢献活動

◆ 「西日本豪雨災害支援活動」 に対し感謝状

(中国営業所)

2018年7月に発生した西日本豪雨災害の被災地区：岡山県真備町（小田川堤防決壊）に対し、鳥取河川国道事務所からの要請を受け、大型土のうを重山トンネル作業所（鳥取県内）から緊急搬送しました。この活動により、北澗鳥取河川国道事務所長様より感謝状を頂きました。この度の豪雨災害にあわれた皆様には、心よりお見舞いを申し上げます。



中央) 北澗鳥取河川国道事務所長様
左) 武藤中国営業所長、右) 金栗社員

◆ 「あかりのファンタジーイルミネーションinおだか」に参加

(南相馬廃棄物業務作業所)

小高観光協会主催（後援：南相馬市）による“平成30年度あかりのファンタジーイルミネーション inおだか”がH30.11.10～H31.1.14の期間に開催されました。この事業は、H14から冬の小高の町並みを明るく彩り、地域の絆や繋がりを深めるとともに、小高に活気を取り戻す一助とすることを目的に開催され、今年は小高産業技術高等学校はじめ、当社の南相馬廃棄物業務作業所等16団体が参加しました。当社は一日も早い震災復興を、震災由来の廃棄物処理業務を通して全力で進めます。

(詳細は福島県南相馬市小高観光協会ホームページより <http://odaka-kanko.jp/c-event/index05.html>)



当社の南相馬廃棄物業務作業所も参加



◆ 「第一回福島植樹祭～ABMORI～」に参加

(東北事業所)

2018年11月4日「第一回福島植樹祭～ABMORI～」が南相馬市鹿島地区北海老の海側地内で開催されました。当社の社員8名が参加しました。このイベントは、ふるさと再生への思いをこめた植樹活動を通して、未来へつなぐ希望の森林づくりを加速させようという思いが込められたものです。ちなみに副題のABMORIとは、このイベントを応援している歌舞伎俳優の市川海老蔵さんにちなんでいます。慣れない植樹でしたが、晴天の下で一本一本苗を植えていく作業の楽しさを近隣の方々と共有することが出来、とても良い経験になりました。今回の植樹が将来、町の大切な防災林に成長するかと思うと、今から胸が膨らみます。



広葉樹植林を行う。奥) 本堂社員 中) 佐保社員 前) 楠田社員



◆ 「大阪府北部地震 茨木市災害ボランティア活動」報告

(大阪事業所)

2018年6月18日大阪府の北部を震源としたマグニチュード6.1の地震が発生、大阪府北部地域を中心に震度6弱の激しい揺れが観測されました。当社では地震発生直後、5名の社員が災害復旧ボランティアに参加し、現地を訪れ、過酷な被災状況を知ることが出来ました。被災地の日も早い復旧に向け、積極的な支援を今後も続けていきます。



(石灯籠の復旧作業：堀部社員)

【参加日時】	2018年6月28日(木)、6月29日(金) 8:45~17:00
【活動場所】	大阪府茨木市内
【活動内容】	参加者 6月28日(木) 堀部、岩隈、柿崎 1件目 庭の石灯籠の倒れ、復旧作業 2件目 家具、室内の普及作業 参加者 6月29日(金) 宇佐美、上垣 1件目 棚の倒れ、扉の復旧作業 2件目 庭の石灯籠の崩れ復旧作業 3件目 2tダンプへ瓦等、がれきの積み込み 産廃処理施設への搬入



(岩隈社員・堀部社員・柿崎社員)



MOVE EARTH,
MOVE EVERYTHING



KOKUDO

日本国土開発株式会社
お問合せ先
安全品質環境本部
東京都港区赤坂4-9-9 〒107-8466
TEL (03) 5410-5790
FAX (03) 5410-5799
ホームページアドレス
<https://www.n-kokudo.co.jp/>